

*日本における「科学と宗教」研究の現状*****

芦名定道（京都大学）

1. はじめに

1. 「科学と宗教」関係論の4類型
対立／分離（非干渉）／協力／一致
2. 「現状」の問い
過去—現在—未来

Philip Clayton (ed.), *The Oxford Handbook of Religion and Science*, Oxford Univ. Press, 2006.

2. 過去から現在

1. 基調としての対立図式（欧米→日本）と、分離・非干渉論（進化論との関連）
2. 石原純（1881-1947、「科学と宗教」1936=S11）の場合。石原量、石原謙。

「現時に於て極端な唯物論者は総ての精神的なものを物質的に解釈しようとし、そして之によって宗教の無用をさへ論結しようとするが」、「あらゆる人間がみんなロボットのやうに機械的に造られでもしない限り、彼等は何等かの宗教をもたずにはみられなかつたであらう。併し現在宗教と称せられる範囲には種々の雑多な要素が混入してゐる。」

「宗教的信仰の核心が宇宙を支配する人間以上の或る能力に存することは疑ひない。」
「若し神がかやうな現実的自然の創造者であるとするならば、そこに行はれる自然法則の維持者であつて、之を勝手に変更するなど云う無法を敢てするものではない。自然のあらゆる現実こそ神の奇跡であつて、その他の之に反する一切は単に人間の夢想でしかあり得ないのである。かくて宗教に於ける真の神秘とすべきは自然以外には存しないのであり、その開明はすべて自然科学に委ねられねばならない筈である。」
「厳格に批判するならば、現在世に行はれてゐる殆んどすべての宗教はなほ多くの迷信的要素を含んでゐる。」

「要するに自然それ自身に於て、特にその既知の法則的真理に於て真の宗教的神秘を感じると云ふことが我々の最も純粋な科学的宗教の核心でなければならない」、「若し我々がこの心をあらゆる雑念から避けしめて純粋に育てるなら、ここに正しい宗教心の発生がある。」

3. 植村正久（『真理一斑』1884=M17、『植村正久著作集4』新教出版社）と進化論
「近時ダーウィンの唱え出せる進化説は、未だ学術上確實なる事実にあらずといへども、極めて信然なる設理に近しとす。しこうしてその意義を正当に解釈すれば、毫も有神論及びキリスト教の組織と相背けるものにあらず」（181）、「論者望むらくは無神説及び唯物論と学術を混同せしむるなかれ」（182）、「吾人は神が数多の順序を踏みて、万物を造成せりと言へる進化説も、敢えて聖經に戻る事無く、また有神論に背戻するところなきを知る。」（184）
4. 大内三郎（『植村正久著作集4』「後記」）
「全体として、明治十年代の東京大学には進化論を中心とした不可知論・実証主義・唯物主義・無神論などが風靡して、それがまたわが国において初めて組織立ったキリ

日本における「科学と宗教」の対話の意味を問い直す

スト教攻撃となり、キリスト教側から応戦がなされたが、『真理一斑』もまたそうした仕方でこころみられたキリスト教弁証論である。」(同書、513頁)

5. 学生YMCA運動

科学者にしてキリスト教徒

対立図式ではないキリスト教理解＝分離論のバリエーション

「科学と宗教」の非対称性、

動機付け・使命感のレベルにおける信仰

6. 仏教の場合

武田龍精『宗教と科学のあいだ』法蔵館、2003年。

泉 美治『科学者の説く仏教とその哲学——創造と国際化のために』

学会出版センター、1992年。

7. 伝統的な日本仏教界で、なぜ「宗教と科学」への関心が希薄なのか。

(1)「明治維新以来、日本が文明開化して行くなかで自然科学や科学技術が怒濤のごとく押し寄せ、明治の知識人はそれを貪欲に吸収していったのであるが」、「残念ながら、西欧近代科学を勃興せしめ、その精神的基盤を担っていたキリスト教を捨象してしまったのである。」(22)

(2)「仏教の考え方は元来科学的なものの見方とは抵触しないという安易で早計な自己弁護的な態度」、「仏教経典には、須弥山説に由来する多くの概念が現れるが、さとりを得る上においては末節なことがらであるとして、現代科学と対比しての疑問は出されず」(26) → 仏教における宇宙論・世界観の位置付け

8. 一方における、倫理的諸問題における対話の必要性の意識。しかし、研究ネットワーク以前の段階、未だばらばら、科学と宗教という問題設定の未成熟。

3. 現在から未来

1. 対話の最初の場の設定。倫理的諸課題、まずはここから。協力あるいは一致。

2. 東アジアと日本における対話の問題設定

物体・物質／生命／心／精神

こころ

こころ：脳科学／認知心理学・実験心理学／臨床心理学・精神分析／宗教

3. 対話における非対称性

物体・物質／生命／心／精神

物理学 生物学 心理学・脳科学 宗教

ボトムアップ：→ 理論内容への影響・還元主義

トップダウン：← 枠組み(全体論)の再構築

通常科学と科学革命

4. 結び

1. 「科学と宗教」の対話と宗教間対話の交差

2. 哲学の役割

哲学：人間理解の共有、ゆるやかな(柔軟な)合理性概念